

GF

ジェンダーフォーラム
通信

GENDER FORUM PRESS

女とは？男とは？考えるマガジン

和光大学

ジェンダーフォーラム 〒195-8585 東京都町田市金井町2160 和光大学ジェンダーフリースペース(G112) TEL 044-989-7777 内線4112 gen-free@wako.ac.jp

GF EVENT

GF読書会の新展開

『家事労働ハラスメント』と『女たちのサバイバル作戦』

2つの本とその著者による2つの講演会

GF読書会へのいざない

GF読書会は今年度から新たにWAN(ウイメンズ・アクション・ネットワーク)と連携して、和光の関係者だけでなく、ウェブサイト上で公募して新しい人にも読書会に入っていただき、読書会の報告をサイトに載せることになりました。また、ジェンダーフォーラムと連携し、授業とタイアップする形で、読書会で輪読した本の著者をお招きした講演会を開催しました。地域の皆さんにも開かれた講演会の様子は、ウェブ上に掲載されています。2014年度前期の参加者は11名。ジェンダーフリースペースで、毎週火曜日(第3を除く)12時頃から16時頃まで活動しています。前期は、「いまを知るため」に竹信三恵子著『家事労働ハラスメント』と上野千鶴子著『女たちのサバイバル作戦』をテキストに選びました。

『家事労働ハラスメント』と竹信三恵子さん(本学教員)講演会

『家事労働ハラスメント』は4月22日から5月27日までの全5回にわたり輪読しました。

夕飯の仕度をするために、議論を切り上げて帰る人がいます。またメンバー全員仕事を持っていますが、どの人の賃金も扶養控除の限度額にも及びません。勉強量も仕事量も大変に旺盛な人たちですが、その労苦がほとんど評価されていないと感じます。こうした自分たちの現状を考える上でも、『家事労働ハラスメント』は最適なテキストです。

本の詳しい内容は、ここでは控えますが、5月10日(土)が竹信さんの講演会でした。データを提示しながらの話は、とても説得力があり、なにより「家事ハラ」という概念はスーと入ってきた感じがしました。これまで持っていた違和感や焦燥感をこの一語が表していると感じるからです。身体を整えるという生きるために必要



不可欠な「家事」を貶めて蔑視し、それを弱い立場とされている人に押し付ける。そしてかたや、寝る時間も自分のための時間も削らなくてはならないほどの長時間労働を強いる。そうした理不尽さに対する怒りを、竹信さんの熱のこもったお話から感じました。どんなに疲れていようと、今日の家事労働を担わなければならない私たちがとるべき行動はどんなことだろうか。これからも考え続けていかなければならない重要な問題だと思います。

『女たちのサバイバル作戦』と上野千鶴子さん講演会

『女たちのサバイバル作戦』の輪読は、6月3日から7月8日までの5回。この本には、働く女性の半生が凝縮されて描かれていました。

読書会での体験に基づく議論は白熱しましたが、これによってすべては自己責任とするネオリベの原理をいつの間にか内在化し、己を責めてばかりいる自分たちの姿に気がついたのは確かです。最後に書かれるリスクを分散させる「百姓のすすめ」からは、まだ提示されていない新しい女性の

生き方の模索する必要性を意識できたと思います。上野さんの講演会は7月12日(土)。和光大学で一番大きな教室に立ち見が出るほどの盛会となりました。上野さんの講演は、本を読んでなくとも、十分に理解できる分かり易いもので、多くの方は理解を深めることができました。講演の様子は、WANのHPにアップされますので、そちらをご覧ください。この講演は、立場の弱い女性や若者にリスクをしわ寄せすることで、利益を得ようとする現在の経済システムに対する問題提起がされていました。しかし講演を聞きながら思ったのは、これは、「女」だけの問題ではなく、実は社会に暮らす「みんな」が当事者だということ。個人



的な問題として考えがちですが、それこそがネオリベの原理なのです。

この日は、上野さんのお誕生日でした。講演会終了後にジェンダーフリースペースで、30名の参加者が集まり、お誕生会を兼ねた懇談会を行いました。日頃お話しする機会がもてない上野さんとのランチタイムは、とても有意義で楽しいひとときでした。

(阿野理香・GFスタッフ)



▲竹信三恵子さんの講演風景



▲上野千鶴子さんの講演風景



▲上野さんとの懇談会

てみることにしました。せっかくの機会と思い、ジェンダーフォーラムの宣伝力を借りて、学内外に広く参加を呼びかけました。

プライドパレードとは、レズビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トランスジェンダーなどのセクシュアル・マイノリティの存在をアピールすることを通して、多様な性や生を讃える祭典です。世界の主要な都市で行われているパレードで、日本でも各地で行われています。私たちが参加した「東京レインボープライド2014〜パレード&フェスタ」の詳細は、公式サイト (<http://www.tokyorainbowpride.com/>) をぜひご覧ください。

パレードでは、カラフルに飾られた「フロート」と呼ばれる山車が参加者を先導します。代々木公園を出発し、渋谷・原宿界限を音楽に合わせて楽しく歩きました。当日の様子を写真でご紹介しましょう。



▲身体環境共生学科のアベさん
フロートを盛り上げてくれました



▲無事、代々木公園に到着

続いて、参加者の感想を紹介します。

代々木公園内には、私が今まで触れてこなかった世界があり、何もかも新鮮だった。そこにいる人々の顔にはたくさんの笑顔があった。誰の言葉だったのか忘れてしまったが、ここに集まっている人たちのことを「同じ色をもたない虹のような存在」と称していた。／…／この言葉はストンと私の心に残った。(現代社会学科2年)

パレードもフェスタも開放的な雰囲気の中で行われていて、本当に楽しめました。普段会うことのないドラッグクイーンの人たちと話をすることもできました。マスコミの取材も多く来ていて、カメラの前で性別適合手術について語る人や、カミングアウトのたいへんさ、自分の性などについて隠さず話している人もいました。パレードを歩いているときに後ろの人たちが話しているのが聞こえてしまったのですが、「会社の人にばれたらやばいわ」と言っていました。いつもは自分を偽っているけれど、この場所だったら堂々と自分をさらけ出せるということなのかな、と思いました。だから、私も開放的ですから楽しい雰囲気を感じたのだと思います。(現代社会学科3年)

私がパレードで参加したのは、ヘイトスピーチに反対する「TOKYO NO H8」というフロートだった。フロートに乗ったラッパが「すべてのヘイトスピーチにNOを」「差別をやめろ」と

GF EVENT

ミニフィールドワーク 「プライドパレードを歩こう」

ジェンダーフォーラムと現代社会学科専門科目「フィールドワークを学ぶ4」の共催企画として、ミニフィールドワーク「プライドパレードを歩こう」を実施しました。

「フィールドワークを学ぶ4」は、現場体験学習の授業です。その目的は「さまざまな社会問題や人々の社会活動にふれるために現地に赴き、人間や社会に対する理解の幅を広げる」というものです。2014年度は私が担当しています。

毎年、行く場所も学習テーマも変わりますが、今年度は「サンフランシスコにおけるLGBTコミュニティの歴史と現在」がテーマ。9月初旬に11日間、世界的に知られるサンフランシスコのコミュニティを訪問しました。現地での様子は、次号のGF通信でお伝えする予定です。

さて、サンフランシスコに思いをはせる前に、まずは足元のコミュニティを体感しよう、ということで、東京の「プライドパレード」へ行っ

コールすると、参加者が後に続いて声をあげた。それを見て、今まで何度もヘイトスピーチデモへ抗議行動を行ってきた知人が「LGBTがテーマのイベントでも、みんなこのコールを言ってくれるんだ」と言っていたのが印象的だった。「差別は嫌だ」という思いは、多くの人が共有できるものだと思えて感じた。その当たり前前の気持ちを表明すると、街の人から白い目で見られ罵声を浴びせられるヘイトデモとは正反対に、街の人が手を振り、ハイタッチをしてくれる。そしてそれは、LGBTの人権を獲得するために動いてきた、そして今も動いている多くの人々の苦悩・犠牲の上に成り立っていると考えると胸が熱くなった。(現代社会学科1年)

五感をフルに使うことで多くを学んだことがうかがえる感想ばかりで、企画者としても大満足でした。今後も、学外での学習機会をどんどん作っていきたいです。(杉浦郁子・現代社会学科)

EXHIBITION REVIEW

村岡花子トーク展を訪ねて

GF読書会メンバーで「村岡花子と『赤毛のアン』の世界展」を見学しました。

8月10日地下鉄有楽町線が止まる程の暴風雨の中、13時に根津駅に集合したNHK朝ドラ「花子とアン」熱烈思い入れ女性集団。暴風雨の中を歩きたくないので徒歩7分の弥生美術館・竹久夢二美術館へタクシー2台に分乗し、たった3分で到着。

中に入るとTVの「ラジオのおばさん」とは随分違う感情導入無し一本調子の村岡花子の肉声「ラジオのおばさん」が流れていて、それはそれはタイムスリップ感満載であった。「村岡花子の世界」の編者であり弥生美術館学芸員である内田静枝さんのブースごとの説明付きという趣向の面白い展覧会。

東洋英和時代

花子が通った頃の東京麻布鳥居坂にある東洋英和女学校(TV:修和女学校)の校舎写真、家族の指示で石炭王との結婚をする燐子(白蓮)と花子が絶交して左右両端にわかれて写っている女学校本科卒業記念写真等々がある。

しかし絶交して両端にわかれて写真をとるなど、女学生のすることとは、100年違って同じらしい。

恋と幸せな家庭生活

山梨東洋英和女学校(TV:甲府の尋常小学校)教師を経て、築地のキリスト系出版社で勤め始め、ここで出あうのが妻子あるクリスチャンの村岡徹三(TV:子無し、妻病死)で、落ちるのが不倫の恋。村岡徹三写真は美男子??だが当時はエキゾチックでカッコ良かったらしい。

が、恋文は「。。。帰ってきたら抱きしめて、キスして、後はうふふ。」なんて書けるダンディー?ナンパ男だ。

不倫の恋の後、村岡徹三と花子は結婚をする。先妻の息子は村岡の親戚の養子となる。花子は男子、道雄を出産。道雄の写真が途轍もなく可愛い!!お金持ちのボンボンだからか、写真屋さんに沢山お金を払って修正したからかは不明。そして安中花子様宛、村岡徹三様宛の恋文の山!!きゃ!羨ましい!!

悲劇と絶望

関東大震災で村岡徹三の経営する銀座の福音印刷焼失、横浜本社倒壊、弟の斉を含む社員70名死亡。その三年後、5歳の道雄が疫痢にかかり発病から二日で死亡。クリスチャンの花子は、先妻の子を養子に出した罰と嘆く一方、神への必死な祈りが聞き届けられなかった怒りから「いっそ、生まれてこなければ良かった!!」と嘆いた。

家庭文学の翻訳

嘆き悲しむ中、以前片山廣子より翻訳を進められていた本を訳すことで立ち直る。「日本の子供達の為によき文学を届けよう」と家庭文学の翻訳を自らの使命とし、青蘭社を起こした。

そう、この片山廣子が超美人。お金持ちで才女。後の日本銀行理事となる片山貞次郎婦人、歌人、ペンネーム松村みね子でアイルランド文学の翻訳家。そして旦那に迷惑かからないようにと翻訳の仕事アンペイドワークとしている超金持ち!!カッコいい!!

白蓮事件

片山廣子とは違った美人が白蓮。TVでは白蓮と帝大生の彼氏の知らぬ間に新聞紙上に白蓮の石炭王への絶縁状が出たとなっているが、事実は??

当時は姦通罪があったそうだ。柳原燐子本人が大正天皇の従姉妹であるので姦通罪に問えない、しかも宮崎の子を身ごもっていた。柳原燐子(白蓮)と宮崎龍之介・石炭王・宮崎の支援者・宮内庁・柳原家で協議しての離婚成立らしい。

ところで白蓮さん、ちょっとカッコ良い。龍之介が病で伏せて収入のない間、歌集で生計を立ったり、吉原から逃げ出してきた遊女を保護したりしている。TVでも「自分を偽って戦争に加担する活動はしない。」と花子と絶交。自分の思想をどんな場合でも曲げず生きる!感動。

最後に

花子、白蓮は、市川房枝らの婦人参政権活動に矯風会として参加している。カッコイイ女達の周りにはカッコイイ女が集まる??

花子の時代へのタイムスリップと、弥生美術館・竹久夢二美術館に併設された喫茶店「カフェ港や」の美味しいカレーを食べ満足な一日だった。(河井久子・GF読書会参加者・48E)



▲弥生美術館にて

自著を語る—『「全身〇活」時代— 就活・婚活・保活からみる社会論』 大内裕和+竹信三恵子、青土社 (2014/5/21)

就活、婚活といった若者の行動が話題になり、最近では若い母親が保育園探しに奔走する「保活」も盛んになっています。学生たちが全身全霊を賭けて就活にのめり込んでいくことを、中京大学教授の大内裕和さんは「全身就活」と名付け、反響を呼びました。実は、婚活や保活の分野でも、同様の「全身婚活」「全身保活」現象が起きています。なぜ、若い世代がこのような「全身〇活」状態に陥っていくのか。そのなどを、大内さんとの対談を通じて突き止めようとしたのが本書です。

戦後の高度成長は、大手製造業による輸出が引っ張ってきました。男性世帯主の多くがこれらの産業で「終身雇用」「家族賃金」を保障された正社員として働き、妻子を養う仕組みが標準とされる社会ができました。ところが、1980年代以降のグローバル化の進展と円高によって、製造業は人件費が安い途上国へと出ていきます。製造業が減る中で男性雇用は不安定になり、女性が得意とするケア労働や、金融、小売などのサービス業の比率が高まっています。もはや、世帯主男性の稼ぎに女性が「専業主婦」として依存する仕組みが成り立たなくなりつつあるのです。

しかし、こうした変化を、バブル世代以上の人々は直視できません。変化を実感できず、経済が拡張していた時代と同じような「長時間労働」や「結婚」でことが解決すると勘違いしています。これが「世代間断層」です。こうした断層のこちら側にいる若い世代は、すでに失われた条件を達成するため、異様な努力を強いられることになります。雇用の数が減り、低賃金の非正社員をどんどん増やせば、正社員からあぶれる人が出るのは当たり前です。それでも必死で就活さえすれば何かが解決するかのように煽られ、疲弊していく。これが「全身就活」の正体です。結婚しさえすれば問題が解決するという専業主婦全盛期の夢を捨てきれず、レアものとなった安定雇用の男性さがしに血眼になるのが「全身婚活」。男女両方が働かなければやっていけない社会になったのに、政府は相変わらず主婦の子育てに依存して保育所経費を切り詰め、その下で、母たちが必死の保育所探しへ追い込まれる。これが「全身保活」です。

「男は仕事、女は家庭」の社会基盤は変わったのに、そ



のパターンを維持し続けようとし続けるジェンダー観の迷走が私たちの不幸を生んでいることを、若い人たちに知ってもらおうと書いたのが本書です。効果の出ない苦勞を強いられて自分を追い込まないためにも、一度本書を読んでみてください。

(竹信三恵子・現代社会学科)

GF EVENT

GFのイベントと読書会のお知らせ

①ワタナベ・コウさん講演会

『「裁縫する女」の ジェンダー・ポリティクス』

▼日時

10月21日(火)13:00~14:30

▼場所

コンベンションホール

(E棟1階)

▼参加費

無料(どなたでも参加できます)



※また10月13日(月)~25日(土)に図書館・梅根記念室にて、洋服やイラスト、「おしゃれ工房」の映像などを展示するワタナベ・コウさんの作品展を行います。こちらも併せてご覧ください。

②GF読書会

▼日時

毎週火曜日 13:00~15:00

<テキスト>

1『アンのかぐりかごー村岡花子の生涯』 村岡恵理著

期間 9月30日(火)~10月28日(火) (10月20日(火)は休講)

2『オスカー・ワイルド』 宮崎かすみ著

期間 11月4日(火)~12月9日(火) (11月18日(火)は休講)

※著者の宮崎かすみさん(本学教員)を囲んでのブックトークを検討中です(日程未定)。

▼参加について

- ・参加費 半期1000円(本学学生は無料)
- ・参加条件 必ず1回は発表すること
- ・どなたでも参加できます

<問い合わせ・申し込み先>

ジェンダーフリースペース gen-free@wako.ac.jp (阿野)